

社会福祉法人エンゼル福祉会
渋谷区かなみの杜・渋谷
2023 年度事業報告書

●共通項目●

(1) 安定的な運営を図る

I 稼働率 (%)

2023年度	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
特養	84	79.3	89.0	91.1	89.6	88.6	89.4	87.7	87.7	87.4	83.9	83.8	83.6	87.3
一般デイ	35	50.7	48.1	48.8	43.4	30.7	41.8	49.6	48.6	50.9	44.8	50.4	50.4	46.2
認知症デイ	12	8.7	8.5	5.8	19.9	14.5	18.6	18.6	17	17.3	14.8	11.0	12.8	14.0
サービスA	20	15.3	8.3	15.2	16.9	11.1	15.2	16.4	13.6	14.7	14.8	11.4	15.5	14.0
居宅(給付)		33.5	34	34	33.5	32	33.5	34	33	33	29.5	30	30	32.5

(2) 職員採用

I 採用者数

- ① 2023年度 30名入職し、32名の退職があった。2022年度に引き続き離職率が高くなっている。3カ月以内の退職者数が12名おり、個人的な要因もあるが、施設としては新規入職者への関りやOJTについて課題を挙げた。

入退職状況【年間】

		2023年度													合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
介護職員	正規	入職	3	1	3	0	0	1	0	0	0	2	3	1	14
		退職	0	1	2	0	0	1	1	0	1	5	0	2	13
	非正規	入職	1	1	0	2	0	0	1	0	0	1	3	3	12
		退職	0	1	1	2	0	1	0	0	3	2	0	2	12
看護職員	正規	入職	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2
		退職	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	1	0	5
	非正規	入職	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
		退職	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
生活相談員		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護支援専門員		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
フロア責任者		入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
事務 運転 清掃	正規	入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非正規	入職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		退職	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
全体		入職	5	3	3	2	0	1	1	1	0	4	6	4	30
		退職	0	3	3	4	1	2	1	0	5	8	1	4	32

II 職員の定着

① 職員の定着について、2023 年度退職者 32 名。(2022 年 34 名)

退職者は上半期 9 名、下半期 23 名であった。下半期に退職者が増加理由は、人員の体制が整わず常に人手不足から疲労に陥り、身体的不調があったりなかなか OJT がうまくできず職員の定着がかなわなかった。

② 退職の要因として、労働条件が 15 名と一番多く、週休 3 日制が思っていたのと違ってことや人員不足や給与に関する不満などが挙げられた。その他、体調不良 6 名、転居 3 名、家族介護 2 名、転職 2 名、人間関係 2 名、その他不明 2 名であった。

(3) 新型コロナウイルス感染症予防について

I 新型コロナウイルス発生件数 45 件

① 8 月上旬から特別養護老人ホームにて大規模なクラスターが発生。今まではフロアにて感染が留まっていたが、フロアを跨いでの感染となった。

② 上記二次感染の事も踏まえ、新型コロナウイルス感染症防止のため、標準的な予防対策に加え、ガウンテクニックやゾーニングのシミュレーションを実施した。ガウンを脱ぐ際の手順ミスが感染拡大につながる可能性があり全職員出来るよう訓練を実施した。

③ 東京都が実施する高齢者従事者向け定期的な PCR 検査を毎週提出し早期発見に備えた。

(4) 災害等の訓練について

東京消防庁渋谷消防署係長を招き、同建物内、福祉事務所と合同で自衛消防訓練を実施。火災発生時の発報、通報、消火訓練や、夜間を想定の場合。特養フロアなどは一時的にバルコニー、階段室へ避難。マンパワーが劣勢な時は時間稼ぎして消防隊の到着を待つ等、避難の方法も訓練内容に取り込んだ。

渋谷区では地震発生を想定した 2 次避難所の初動対応訓練があり、区内の 19 箇所ある避難施設が参加。MCA アドバンス無線の留意点の確認する機会を設けた。

(5) 特別養護老人ホームの入居者支援の考え方

入居者の有する能力を最大限に発揮し、その方の暮らしの継続を支援します。入所者の暮らしに合わせた生活空間等の環境設定をする事で、「出来ることは自分で行う」「出来ないところは入居者同士で支え合う」といった「自助」「互助」の概念に基づいた支援を展開していきます。入居者自身(同士)が、生活の主体であり、施設の生活スケジュールではなく、入居者の生活軸を基に組み立てていきます。

I 目標評価

① 年間目標稼働率 95% → 実績 87.6%

2023 年度上半期にて残り 4 床の空床まで入居をご案内したが、その後人材確保、定着に苦しみ現段階にて満床に出来ていない。2024 年 5 月時点において人員について退職者を上回る入職が出来ている。順調に進めば 2024 年 7 月もしくは 8 月に満床にする予定で進めている

② 防げる入院の減少 入院日数 700 日以内 ➡ 623 日

- ・2023 年度入院日数 623 日。満床になっていない状態での数値のため未達。
- ・心不全が起因の入院は 0 日。心不全の既往がある方に関しては適切な水分量や体重の増減の確認をした。
- ・肺炎予防ワクチン接種は入居時打診。
- ・機能訓練指導員、ユニットリーダー中心に転倒歴のある方の自室環境設定を実施した。転倒による骨折入院は 1 件のみであった。

③ 職員育成

- ・上半期、下半期共にオンライン研修を実施した。集合型の研修は未実施。
- ・ユニットリーダー研修 3 名受講。1 名退職してしまった。
- ・食支援専門糧 2 名受講し 1 名は退職。1 名は手術のため途中リタイヤ。
- ・SMBC セミナー活用できていない。
- ・食支援、ユニットリーダー研修受講者を中心にケアに関する方向性を見出ししている。

④ 看取り介護の推進

- ・看取り介護後、振り返りは実施していない。
- ・看取り介護に関する勉強会は下半期に 1 回実施。
- ・2023 年度看取り件数 9 件。うち家族 4 件。呼吸状態を観察し家族に状況報告が来ている

⑤ 見守り支援機器の有効活用

- ・見守りカメラや眠りスキャンは活用できているフロアと出来ていないフロアに分かれる。事故予防の観点から活用できている。
- ・勉強会は未実施。眠りスキャンの勉強会企画がパラマウントベッドが提案を受けたがコロナが蔓延してしまい中止となった。
- ・ハナスト（音声入力）を 2022 年度から導入し活用できている。
- ・看取り期の方に対して眠りスキャンのデータから時期の予測が出来ている。

⑥ 事故の削減

- ・誤薬事故 5 件発生。人間違いの誤薬 3 件。時間帯を間違えてしまった件数 2 件であった。薬に関する事故は 21 件。落薬 13 件、誤薬 5 件、セットミス 3 件であった。
- ・表皮剥離の事故 12 件発生。うち同一の入居者で 5 件。職員が起因による事故は 3 件であった。
- ・2023 年度の事故件数は 103 件。うち転倒・転落の事故が 45 件であった。

⑦ 入居者個々に合わせた支援の実施

- ・入居者個々の生活が送れるよう、入居段階にてナラティブシートを作成している。ナラティブシートを参考に好きなものや習慣を施設での生活に反映しているが限られ ts ケースになってしまっている。
- ・イベントの実施しについては季節的なイベントが出来ている。ただフロアは限られているためリーダーや発信者を今後作っていく必要がある。

(6) 高齢者在宅サービスセンターにおける利用者支援の考え方

利用者が「尊厳と自立」に満ちた生活を送るため、安心して利用できる信頼度の高い介護サービスを提供する。

利用者一人ひとりの人格を尊重し、様々な疾病を患い介護が必要な状態になっても、利用者自身の「意思」を汲み取り、そして可能な限りその「意志」を尊重し、自己決定に向けた支援を行う。

利用者の住み慣れた地域及び居宅での生活が安心して継続できるよう、日常生活で必要となる動作の機能回復に繋がる活動を提供し、自立支援・在宅生活の継続に向けたサービスを推進し、ご家族や担当の介護支援専門員、他の居宅サービスや医療サービス等との連携や事業所内での情報共有を行い、利用者の心身機能の維持・向上に繋げることをしたい。

I 一般型通所介護事業（定員 35 名）目標評価

① 目標稼働率 68.1%→46.2%

稼働率に関しては目標値に対して7割程度の達成率となった。年間を通じてやや増減はあるものの、横ばいの結果となった。稼働率を伸ばせなかった原因としては、介護職員と運転手の確保に苦心したことと新型コロナウイルス陽性が判明したことによる利用控えが影響したものと考えられる。

介護職員の定着と運転手の確保をしていくことが次年度以降の課題となる。

居宅介護支援事業所には困難ケースを含めてすべての問い合わせには受け入れ可能であることを伝えていく事で困ったときに頼れるデイサービスであることのアピールをしていく。

通所介護(一般)	定員 35 名		2023年度月別実績データ										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	25	27	26	26	27	26	26	26	27	27	25	26	314
定員数	875	945	910	910	945	910	910	910	945	945	875	910	10,990
目標利用人数	433	496	510	558	589	600	651	660	741	744	700	806	7486
利用実績数	444	455	444	395	290	380	451	442	481	423	441	459	5105
当日キャンセル	11	13	12	12	1	9	8	8	7	10	9	14	114
平均利用者数	17.8	16.9	17.1	15.2	10.7	14.6	17.3	17.0	17.8	15.7	17.6	17.7	16.2
目標稼働率%	49.5%	52.5%	56.0%	61.3%	62.3%	65.9%	71.5%	72.5%	78.4%	78.7%	80.0%	88.6%	68.1%
月別稼働率	50.7%	48.1%	48.8%	43.4%	30.7%	41.8%	49.6%	48.6%	50.9%	44.8%	50.4%	50.4%	46.2%
新規利用者	4	4	3	7	3	7	2	3	2	0	0	2	37
契約解除者	4	1	3	5	4	3	3	1	4	6	0	0	34
登録者数	0	60	60	62	61	65	64	66	65	59	59	61	56.8
平均介護度	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.3	2.3	2.5	2.6	2.5	2.5	2.7	2.5

② 職員育成

朝礼・夕礼を実施し、職員個々と適宜助言、相談をしながら育成をした。介護職員の育成については、管理者、相談員が現場に関わりながら実施していった。

昨年度より課題となっていたドライバー不足について、新たに派遣職員を採用して対応した。ドライバーの運転技術や交通ルールの順守の徹底をチェックするために定期的に管理者が同乗することを実施した。

介護職員、ドライバーの職員の定着を進めるためにも管理者が日頃からコミュニケーションをとるこ

とを実施していく。

③ サービスの質の向上

生活相談員が事業所の第一窓口であること、送迎の際に家族との情報共有をこまめに行い、利用者の自宅での様子を踏まえてデイサービスでの取り組みを実施した。自宅で利用者・家族が困っていることを確認、把握し、利用中に解決できるような取り組みを深めていった。

職員個々が利用者の在宅生活向上に向けた課題解決を意識して支援することに努める。

Ⅱ 認知症対応型通所介護（定員 12 名）目標稼働率 21.5%（1 日平均 7 名）→ 14.0%

- ① 一般通所介護の利用者増加に向けて動いていることもあり利用者増加に向けた大きな活動は出来ていない。2023 年度は本格的な稼働していく。

通所介護(認知症対応型)	定員 12 名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	25	27	26	26	27	26	26	26	27	27	25	26	289
定員数	300	324	312	312	324	312	312	312	324	324	300	312	3,468
目標利用人数	30	32	47	44	58	59	69	72	84	84	99	94	742
利用実績数	26	28	18	62	47	58	58	53	56	48	33	40	527
当日キャンセル	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
目標平均利用者数	1.2	1.2	1.8	1.7	2.2	2.3	2.6	2.8	3.1	3.1	4.0	3.6	2.6
平均利用者数	1.0	1.0	0.7	2.4	1.7	2.2	2.2	2.0	2.1	1.8	1.3	1.5	1.7
目標稼働率%	10.0%	10.0%	15.0%	14.0%	18.0%	19.0%	22.0%	23.0%	26.0%	26.0%	33.0%	30.0%	21.5%
月別稼働率	8.7%	8.6%	5.8%	19.9%	14.5%	18.6%	18.6%	17.0%	17.3%	14.8%	11.0%	12.8%	14.0%
新規利用者	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4
契約解除者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	3
登録者数	2	2	2	5	5	5	6	5	5	3	3	3	3.8
平均介護度	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4.5	4.5	4.9

Ⅲ 介護予防総合事業

- ① サービス A 型（定員 20 名）目標稼働率 56.7%（1 日平均 11.3 名）→ 14.0%

トレーニングマシンを中心とした身体機能の維持向上、体力増進を図るプログラムを行った。

機能訓練指導員が、初回利用の際に身体の機能や困りごとを踏まえたメニューを考えた。利用者個々によってプログラムが異なるため、介護職員が行えるよう写真付きでメニュー表を作成した。

また、週に 1 度のみ利用される方がほとんどであるため、来所した時にだけ運動をするということではなく、自宅で何かしながらでも行える運動を提案した。

送迎に関しては自力で通所できる方については送迎なしで対応しているが、荒天時などは送迎を実施するなど柔軟に対応している。

通所介護(サービスA)	定員 20 名												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
稼働日数	20	23	22	21	23	21	22	22	19	20	21	21	235
定員数	400	460	440	420	460	420	440	440	380	400	420	420	4,700
目標利用人数	120	161	176	189	230	252	308	308	266	280	294	294	2758
利用実績数	61	38	67	71	51	64	72	60	56	59	48	65	712
当日キャンセル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
目標平均利用者数	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0	12.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	14.0	11.3
平均利用者数	3.1	1.7	3.0	3.4	2.2	3.0	3.3	2.7	2.9	3.0	2.3	3.1	2.8
目標稼働率%	30.0%	35.0%	40.0%	45.0%	50.0%	60.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	56.7%
月別稼働率%	15.3%	8.3%	15.2%	16.9%	11.1%	15.2%	16.4%	13.6%	14.7%	14.8%	11.4%	15.5%	14.0%
新規利用者	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	1	1	5
契約解除者	0	0	0	1	1	1	0	1	2	0	0	0	6
登録者数	19	19	19	19	18	17	18	18	17	17	18	19	18.2

IV 居宅介護支援事業者

① 目標稼働率 給付管理件数 30 件

介護給付件数	人数	11月	12月	1月	2月	3月
2022目標給付数	1	6	12	18	24	30
2022給付管理件数	1	3	9	14	21	25
予防/地域支援事業						
		11月	12月	1月	2月	3月
2022委託買請求件数	1	2	4	4	6	6
介護/予防常態換算件数						
		11月	12月	1月	2月	3月
2022一人当り実績数	1	4.0	11.0	15.0	24.0	28.0
認定調査						
		11月	12月	1月	2月	3月
目標調査件数				10	10	10
2022認調委託件数	1			9	9	10
契約者増減数						
		11月	12月	1月	2月	3月
新規契約		4	7	7	8	5
解約件数		0	0	1	1	2
2022増減数		4	7	6	7	3

IV 居宅介護支援事業者

① 給付管理件数 30 件/月 (介護・予防含む)。

年間を通して相談・依頼は安定。受け入れの調整しながら新規 24 件、解約 22 件。月平均 32.5 件の給付管理件数を維持することが出来た。

② 安定した認定調査事業運営。

今年度より大向地区で認定調査員を担当。年間約 200 件という当初の想定通り、199 件の依頼数となる。特段、苦情やクレームはなく認定調査業務の遂行が出来た。しかし認定調査員 1 人体制なので月平均 16.5 件。調査依頼が多い月は 26 件/月の認定調査の実施と業務負担は大きい状況にある。

③ 人材確保の取り組み

給付管理数、認定調査数から人材は受け入れたい状況にある。しかし人材不足、近隣、居宅支援事業所等も人材確保には苦慮している現状もあり人材確保に繋がらない状況である。

V 介護予防総合事業（元気すこやか事業）

渋谷区からの委託事業であり、創作活動や運動などを行う講座を開催し、高齢者が要支援・要介護状態になることを予防し、高齢者の健康づくりを促進するものである。渋谷区内に住所を有する 65 歳以上で、自分で通所可能な方が対象。

特段、問題なく 2023 年度を経過することが出来た。新たに、オンライン講座も増え、新規の講座開設などもあり順調に事業は経過している。

・運動講座

エアロビクス、ヨーガ、健身操、太極拳、ピラティス、ポールウォーキング、健康体操など

・文化講座

英会話、詩吟、書道、水墨画、水彩画、コーラスなど